



## 市モノづくり元気企業を認定

9月26日、株式会社川下機工(点野三丁目)に、「寝屋川市モノづくり元気企業」として認定証を交付しました。社長の川下さんは、「受賞できてとても嬉しいです。これからも地域と共に高い技術でモノづくりに貢献していきたい」と話しました。

モノづくり元気企業認定制度は、優れた技術や製品を持ち、経営の効率化や技術革新に積極的な市内企業を市が支援する制度です。



## キッズ・スマイル・パークの入場者が1万人を突破

### 子育てリフレッシュ館 RELATTO(リラット)

9月17日、リラットのキッズ・スマイル・パークの入場者が1万人を突破しました。

キッズ・スマイル・パークは、6万個のボールプールなどがある室内遊びスペースで、利用者からは、「子どもが楽しく遊ぶ姿を見てうれしかった」「親子で楽しめた」といった声があがっています。リラットでは、これからいろいろなイベントを実施します。是非、遊びに来てください。



## 海外友好都市 中国・上海市黄浦区を訪問

9月14日～17日、世界中の参加者が集まる上海観光フェスティバルへの出演のため、市民訪問団総勢38人が上海市黄浦区を訪れました。

フェスティバルには、栄克俛(ソウコクケン)黄浦区代区長と市区間の交流を協議するために公式訪問していた北川市長も訪れ、市民訪問団を激励するとともに、多くの観客と「よさこい鳴子踊り」の演舞を鑑賞しました。

市民訪問団は、踊りの披露や、現地での市民交流を通じて友好を深めました



## 秋の全国交通安全運動

9月21日、寝屋川市駅前で、犬塚あさなさん(元SKE48)を1日警察署長として迎え、交通安全広報活動を行いました。

犬塚さんは、交通安全に向けた呼び掛けや、啓発グッズの配布を行い、駅前に現れたアイドルの姿に、市民の皆さんはとても喜んでいました。



## 民生委員制度創設百周年記念 記念碑設置に係る除幕式

寝屋川市民生委員児童委員協議会が民生委員（方面委員）制度創設百周年を記念し、本庁舎前に記念碑を設置しました。

10月15日に寝屋川市民生委員児童委員協議会会長や役員、市長、関係者ら約50人が参加し、除幕式を行いました。

記念碑には、これからの子どもたちを大切にす  
る児童憲章（前文）が記されています。



## 今年も田んぼに素敵なアート

成田南町の農園に今年も幅約60メートル、奥行き約40メートルの「田んぼアート」が出現しました。緑のもち米と黒紫の古代米「紫稻」を使い、はちかづきちゃんとねや丸くんのイラストが描かれました。

都市化が進む寝屋川で農業の大切さを発信している南保次さんが平成25年から毎年、隣接する有料老人ホーム「ぼぶら」や摂南大学、地域住民と協力して取り組んでいます。来年はどんなデザインが現れるのか、今から楽しみです。

## 活躍する市民の皆さん

○第49回全国中学校体操競技  
選手権大会2位



小峠 一真さん  
（市立第八中学校3年生）

○第18回毎日パソコン入力コ  
ンクール6月大会2位



中村 奏さん  
（市立第六中学校3年生）

（右から）  
○佐々木雅卓さん（タイに派  
遣）  
○中道海伽さん（エルサルバ  
ドル共和国に派遣）



参加  
JICAボランティアに



# 市内各地で行われた 秋祭



毎年10月上旬～中旬に市内各地で行われた秋祭。  
100年以上続く伝統で、立派なだんじりを神社に奉納しました。



◆ 寝屋地区 ◆



◆ 高宮地区 ◆



◆ 小路地区 ◆



◆ 打上地区 ◆



## 秋の使者、ススキが市内で見られるようになりました

川勝町付近で、銀色の穂を揺らす立派なススキが生えていました。夏が過ぎたにもかかわらず、暑い日が続いていましたが、ようやく涼しい気候が続くようになり、すっかり秋の装いを見せています。最近では、急激に冷え込む日も増えました。

皆さん体調管理に気を付けてください。



## プログラミング教育に関する協定を締結

9月10日、市教育委員会は大阪電気通信大学と「プログラミング教育に関する協定」を締結しました。

次代を担う子どもたちが新しい時代に必要となる資質・能力の一つ、情報活用能力を身に付け、プログラミング的思考を育むためのもの。ICT分野の人材育成、プログラミング教育の研究に取り組んでいる大阪電気通信大学のノウハウを生かし、指導教員の養成や、より充実したプログラミング教育の実施につなげます。



# ふるさと **ねやがわ**

## 戻りたいと毎日思う 快適なまち・寝屋川

地方競馬ジョッキー <sup>ひびき</sup> 石堂響さん

### 君はいつか騎手になる

午後から雨が降りしきり、馬場の状態が「稍重」から「重」に変わった園田競馬場。9月26日の第9レースに石堂響さんは、緑色と浅黄色のツインの勝負服をまとい、ゼッケン1番の競走馬にまたがりまわす。しばらくしてゲートが開くと、12頭のサラブレッドは一斉に泥だらけのダートを疾走していきまわす。

「君はいつか騎手になるかも」。小学校2年生の頃、国松町にある駄菓子屋で買った、10円のラムネ菓子。その景品の「占いカード」に、そう記されていたことで職業を決めた石堂さん。人気テレビ番組でも紹介された、まるで映画のような逸話です。名馬・オグリキャップの「追っかけ」の経験もある実母の応援もあって、騎手への夢を「机に『占いカード』をはさんで心に誓った」と、振り返ります。

先導に続いて入場する石堂さん（緑色と浅黄色の勝負服）

市立第六中学校の卒業を控え、JRA競馬学校にチャレンジするも実らず、栃木県にある地方競馬教養センターで2年間の訓練期間を経て、ライセンスを取得しました。今年から全国15ある地方競馬のひとつ、兵庫県競馬組合に所属し、園田競馬



西脇市にある、宿舍兼トレーニングセンターでは「夜8時に寝て、深夜1時から競走馬の調教を始めます。（競馬の）開催日は朝7時、それ以外の日は9時まで、1頭につき20分間隔で調教するのが日課です。週1回の休日もほとんど遊ぶこともなく、騎手になって以来、寝屋川には一度も帰っていません」と言います。そこで寝屋川市のことを聞いてみると「寝屋川まつり、ビバモール、駅前図書館、快適でいいまち。戻りたい」

### 深夜1時に競走馬の調教

レースの騎乗条件には、騎手の体重と装備品などを合わせた重量制限があり、騎手の体重制限は不可欠。石堂さんも小柄な体型で比較的恵まれています。が、「体重計に乗って理想よりオーバーしていると、食事を抜いて調整しています」。



と毎日思います」と、19歳の石堂さんは、少し郷愁を帯びて視線を上げました。

兵庫県競馬組合企画広報課の手塚誠さんは「石堂さんは言いませんでしたが、勝負服の緑色と浅黄色のツートンカラーは何度も競馬場に足を運ぶお母さんの緑子さんと妹の浅黄さんの名前に因んで決めたもの」と、家族への密かな思いを明かしてくれました。

週3回、年間163日開催される園田競馬場、1日に4〜5回騎乗する過酷な日程ですが、「レースに勝った瞬間が最高」と、プロ意識の高い石堂さん。第11レースにはゼッケン3番のくらにモンキー乗りで、土砂降りの雨の中を駆け抜けました。